

一関市：外国人就労者地域交流促進奨励金のお知らせ

25.05.28



外国人就労者と地域住民との交流を促進するため、令和6年度から新たに「一関市外国人就労者地域交流促進奨励金」を創設しました。

事業者が行う生活環境の改善や多文化共生の推進などの事業に対し、奨励金を交付します。

出典：<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/29,169907,67,html>

盛岡市：外国人労働者がふるさと紹介 民族衣装で交流会

岩手県内で働いている外国人が生まれ育った故郷の伝統衣装や食事などを岩手の人に紹介する交流会が1日、盛岡市で開かれました。

1日に開かれた国際交流フェスティバルは、労働者として海外から受け入れている県内の特定技能外国人や技能実習生などの生活をサポートしている盛岡市の支援団体が初めて企画したもので

外国人労働者と地域住民が交流する機会を設けようと用意された会場には、故郷の民族衣装を身に着けたミャンマーとインドネシア出身の12人が参加しました。それぞれ訪れた人にミャンマー伝統の菓子を試食してもらったり、一緒に記念撮影をしたりして楽しんでいました。

25.06.01



出典

: <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/ibc/1950016?display=1>

株式会社オヤマ

特定技能外国人にサッカーシューズを贈呈

25.06.02

一関市室根町の鶏肉生産加工販売業オヤマ(小山征男(いくお)社長)と東京都の人材派遣業スシボンバー(吉国雄大社長)は26日、オヤマに同日入社したインドネシア出身の特定技能外国人5人にサッカーシューズを贈った。生産年齢人口の減少で労働力確保が全国的な課題となる中、インドネシアで大人気のサッカーができる環境を提供し、長期定着と交流拡大を図る。



オヤマで開いた歓迎会で、同社の小山達也常務と吉国社長らが、インドネシア人が好むビビッドな色のサッカーシューズを贈呈。小山常務は「仕事ばかりではつらくなる日もあるだろう。国籍を超えてサッカーを楽しみ、ずっと働き続けてほしい」と激励した。

外国人の数、10年で3.6倍に 製造業のまち・北上市、受け入れ態勢を強化 働き手不足が背景に

2025.09.15

企業集積が進む北上市で暮らす外国人が急増している。2024年末時点で1392人と10年前の3・6倍に達し、少子高齢化に伴う労働力不足を背景に基幹の製造業に従事する外国人が多い。生活のサポート充実が急がれ、市は多文化共生推進本部を立ち上げ受け入れ態勢の強化に乗り出した。建設機械用エンジン部品の製造などを手がける同市村崎野の平野製作所（平野貴也代表取締役）。技能実習生や特定技能の在留資格を持つインドネシア出身の若者7人が、現場で機械のオペレーターを担う。勤務3年目のバユ・マンダラ・プトラさん（29）は「日本の技術を習得できるし、仕事は面白い。北上にはいろんな企業があって友達もできた」と笑顔で語る。



平野製作所で業務に励むバユ・マンダラ・プトラさん。現場の貴重な戦力となっている＝北上市村崎野

外国人材の活用拡大へ、岩手県商工連 が研究委 「大卒も必要性増す」

2025.11.28

刻化する人手不足に対応するため外国人材の活用を広げようと、岩手県商工会連合会（総会員数8464事業者）は11月、調査研究委員会を立ち上げた。外国人への排他的な風潮も広まる中、狙いや今後の展望は――。担当する同連合会の阿部正喜副会長（滝沢市商工会長）に聞いた。――人手不足はどこまで深刻なのでしょうか。「局面が変わりました。日本人の働き手が見つからないだけではありません。円安などの影響で、外国人材もなかなか採用できない状況に入ってきています。（盛岡市に隣接する）滝沢市では、雇っていた外国人が3人から1人にまで減った会社があります」



外国人材の活用に向けた調査研究委員会を立ち上げた岩手県商工会連合会の阿部正喜副会長=2025年1月18日、滝沢市、長野剛撮影 

外国人技能実習生がクリスマス交流会 に参加しました。

弊社では4名の外国人技能実習生（フィリピン）が一生懸命働いてくれています。年に1度、仲間に会えてとても楽しそうでした。岩手の文化のわんこそばも体験でき、笑顔溢れるクリスマス交流会でした。交流会の開催を企画して頂いた企業様、協同組合ユウアンドアイ岩手様ありがとうございました。

。

2025.12.15



出典：<https://www.i-daishin.co.jp/news/1578>

半導体人材、インドネシアから誘致 数百人規模確保目指す

2025.11.23

電子部品製造のワイ・デー・ケー（YDK、東京）と外国人技能実習生の受け入れ事業などを手がけるあお空国際人材開発グループ（宮古市、大久保博代表）は、需要が高まる半導体分野の高度人材確保のため、インドネシアの若者を誘致し、育成する事業に着手した。現地の自治体や教育機関との協力体制を構築し、日本語教育もサポート。東北工場（遠野市）を含めた同社の製造拠点を技術指導する。仕組みづくりを進め、2030年代前半までに数百人規模の確保を目指す。



現地の専門学校を見学し、教員や学生と意見交換する関係者。半導体人材の誘致と育成を進める＝インドネシア・バンドン市（大久保博代表提供）

「外国人を歓迎してます」10カ国100 人でクリスマス会 陸前高田

2025.12.23

岩手県陸前高田市で14日、外国人と地域住民が集うクリスマス交流会が開かれ、同市や近隣に住むベトナム、ミャンマー人ら10カ国出身の約100人と日本人が参加した。ステージでは多国籍の賛美歌隊が歌った後、カンボジアの踊りなどを披露し合った。同市の人口は11月末現在で1万6822人で、そのうち外国人は199人。水産加工会社や縫製会社などの技能実習生が多く住む。



ドレス姿で母国のダンスを披露するカンボジア出身者=2025年12月14日、岩手県陸前高田市、東野真和撮影 

出典：

<https://www.asahi.com/articles/ASTDQ4D0DTDQUJUB004M.htm>

インドネシア出身実習生と北上出身の会社員 国境越えた3人「FUTITA」 紫波で初コンサート

2025.09.09

インドネシア・ジャワ島出身で技能実習生として働く北上市のフサイン・アルカエダさん（23）とティノ・ハルティントさん（23）が、紫波町の会社員菊池竜馬（たつま）さん（28）と結成したユニットは15日、同町で初の単独コンサートを開く。異国で魅了されたポップソングを演奏し、国境を越えた友情のハーモニーを響かせる。



出典：<https://www.iwate-np.co.jp/article/2025/9/9/186507>

失踪のベトナム人技能実習生ら13人逮捕、 不法残留容疑で岩手県警 中国人ブローカー関与か

2025.10.17

10月16日、岩手県警は、入管難民法違反（不法残留など）容疑でベトナム国籍の21～46歳の男女13人を逮捕したと発表した。うち11人は技能実習生として入国し、在留期間が切れた後に失踪したとみられる。岩手県内で農業を営む中国人ブローカーが関与した疑いもあり、県警は不法就労助長容疑での立件も視野に捜査を進める。

